

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ワンハートビレッジ		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 10日		～ R7年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	R7年 2月 10日		～ R7年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	契約時の説明に加え、毎日の送迎時に保護者様と会話することで、事業所の利用に関して安心感を持って頂けている	見学時から事業所の方針や実際の支援の場を見て頂き理解を深め納得した上で契約をして頂く流れを作っている。また保護者の方との良好な関係作りのために送迎時に必ず今日の様子などのお話をしている。お子さんの話だけではなく、母や父、ご兄弟のお話も聞かせて頂ける様に工夫している。	何か不測の事態が起こった際にもお互いにスムーズに話し合いができる為に、個別支援計画の面談の際に、再度契約書の内容や重要事項などについて振り返りの時間を設ける。
2	定期的に保護者の子育てに関する相談にのり、迅速に対応している	事業所での支援で上手くいった方法のお伝えや、病院や発達検査などの相談などにも対応している。社会資源の情報もお伝えしている。	より実際の支援の方法を目で見て確認できることで、安心して利用の継続が可能になる為に、保護者が実際の支援の場を見に来れる様な参観の場を定期的に設ける。
3	発達支援室を構造化することとスケジュールの視覚化をし子どもたちが理解し生活しやすい環境調整を行っている	利用の前になぜスケジュールが必要なのか、どのような目的で使用しているのか、活用する方法などをお伝えし、保護者の方にも一緒に理解しご家庭や園でも般化可能なことをお伝えしている	同じ形式サイズのスケジュールを作成しているが、よりスケジュールの定着や効果を伸ばすために個々の特性や年齢に応じたスケジュールの作成と見直しを実施する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	パーティションで構造化しているが、一部屋しかなくスペースがかなり狭い	狭い空間でも工夫をして、子どもたちが理解し動きやすい様にスペースは確保しているが、それでも10人になると大人の数も増え狭い環境になってしまう。	事業所が新しく建ち、スペースがかなり広くなるので、子どもたちの運動や遊びが十分に楽しめる環境を作ることが可能になる。場所が広くなる分目が届かない部分が増えるので、より一層大人の動きや目線を配れる様配置などを工夫する。
2	家族等が参加できる研修や事業所での学習会の開催ができていない。	毎日の送迎や面談で保護者の方からの相談にお答えする時間はあるが、年間計画を作成できていなかったこともあり、研修会のお知らせや家族会などを実施できていない。	今後は年間計画を組んで事前に準備とお知らせをしていくことで、保護者向けの研修会や勉強会や家族会を定期的に開催していく。
3	避難訓練の実施状況やBCPの内容について個別での活動記録での報告のみで保護者様に公表があまりできていない。	実際に備蓄品や作成しているBCP計画などを確認頂く機会を設けていなかった。また避難訓練の作成している年間計画を公表していなかった。	契約時や個別支援計画の面談の際に、実際に備蓄品の確認を一緒に頂くことに加え、避難先を最初に契約時に紙面でお渡しする。避難訓練の年間の実施計画をアプリにて毎月掲載する。